

和歌山県の魅力

自分時間が充実、理想のワークライフバランス!

1. 充実した暮らし

都会と比べて、和歌山県は物価も家賃も安いので、趣味や遊びに使えるお金が充実します。若い時から、自由に使えるお金で、プライベート時間を充実させませんか?

	和歌山	全国	東京	大阪
①大学卒初任給	223,600円	225,400円	230,600円	227,600円
②25~29歳の平均月給	239,100円	231,110円	265,200円	258,400円
③家賃平均月額	41,094円	55,609円	80,918円	55,614円
④消費者物価地域差指数	99.4	100.0	104.5	99.8

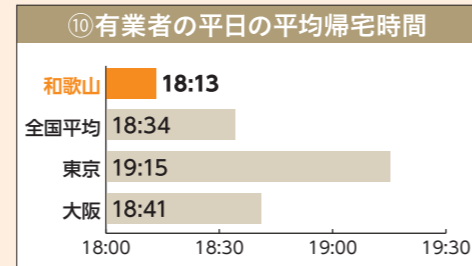
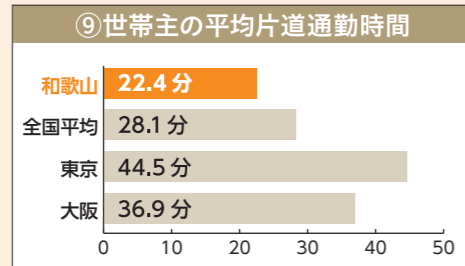
2. マイホームのある暮らし

和歌山県では、比較的安価で大きい家を建てることができます。大きな家でゆったりとした生活を過ごす人生を考えてみませんか?

	和歌山	全国	東京	大阪
⑤1㎡当たり住宅地平均価格	35,700円	53,372円	389,100円	152,200円
⑥土地付住宅建築費	3,972万円	4,456万円	6,105万円	4,881万円
⑦持ち家の延べ面積	124.4㎡	119.9㎡	93.3㎡	101.8㎡
⑧持ち家比率	73.0%	61.2%	45.0%	54.7%

3. 自分時間のある暮らし

和歌山県では、通勤時間が短く、帰宅時間も早いので、自分や家族との時間を多く持つことができます。早く帰ってワークライフバランスを充実させませんか?



出典 ①②R3賃金構造基本統計調査【企業規模10人以上・所定内給与額】(厚生労働省) ③⑦⑧⑨H30住宅・土地統計調査(総務省統計局) ④R3小売物価統計調査(総務省統計局) ⑤R4都道府県地価調査(国土交通省) ⑥R3フラット35利用者調査(住宅金融支援機構) ⑩R3社会生活基本調査(総務省統計局)



和歌山県職員採用情報



公式SNSでも情報発信中

採用説明会の開催情報、職種紹介などの情報をタイムリーにお届けします。



Facebook



X(旧Twitter)



Instagram

上記QRコードより最新の情報を確認いただけます。試験案内、申し込み方法、仕事内容の詳しい紹介、先輩職員のインタビューなど、情報が盛り沢山なので、ぜひチェックしてください。

問い合わせ先 和歌山県人事委員会事務局 TEL 073-441-3763 FAX 073-433-4085



県庁職場ガイド

和歌山県庁に訪問し、現役の県職員と直接お話いただくことができます。県の施策、仕事の魅力などをお伝えし、皆さんの県の仕事などに関する疑問や質問にもお答えします。

申込方法 上記QRコードよりお申し込みください。

対象者 和歌山県職員をめざしている方

受付期間 随時受け付けています。

訪問日時 申込み受付後、日程調整の上、メール等により連絡します。(土・日・祝日及び12/29~1/3を除く)

問い合わせ先

和歌山県総務部 人事課 人材育成班
TEL 073-441-2138 FAX 073-422-9312

✉ e0102001@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県職員の職種ガイド

和歌山が最高!だと子どもたちが思う未来を!

建築職

あなたが和歌山県の未来をつくり、和歌山県はあなたの未来をささえる。



建築職が担った県庁舎建設

君がわかやまを建てる!

Wakayama is the best

建築職



キャリアパスモデル

※当モデルはあくまで一例です

年齢	役職	主な役割
22歳	技師	担当業務を着実に実行しながら、建築職として基本的な技術を習得
30歳	副主査	資格取得を目指しつつ、専門的な技術力を持って担当業務の課題解決などを行う
40歳	主査	技術力と経験を生かし建築施策を企画・実行すると共に職場における後輩の育成を行う
45歳	建築主事(主任)	建築主事として、建築物の品質向上のため担当地域の建築行政を包括的に担当
50歳	班長	各種建築行政にかかる政策を積極的に推進するとともに広く後輩の育成を行う
55歳	課長等	県行政の更なる発展のため各種施策を包括的に推進するとともに建築職全体の育成を行う

君がわかやまを建てる! 仕事の3要素

- ① 県の施設を快適に利用して貰うための工事やメンテナンスの仕事
- ② 建物の安全と品質を守るため建築物に関する法律を統括する仕事
- ③ 建築物の将来を見据えた制度づくりの仕事



どれも県の発展のためには無くてはならない仕事であり、私たちはその役割を担っています。他方で和歌山県は南北に広い県域をもつ地方自治体です。そのため地域の文化や気候も大きく異なり建築物に求められる性能も様々です。また社会情勢が大きく変化し人口も減少していくなかで、これからの建築物はどうあるべきか。こういった課題にも取り組む必要があります。さらに私たち建築職は県庁の中で様々な役割を果たしながら、一級建築士や建築基準適合判定資格者などの資格を取得していくという他職種にはない目標と専門性を有した職種です。建築職の皆が成長しながら誇りを持って仕事をしています。若い皆さんも私たちと一緒に成長しましょう。

～ 私たちがわかやまを建てる! 君と働く建築職員 ～



建築住宅課

内田 将成 技師

令和3年度採用

これまでの経歴

R3年度 一級建築士合格(24才)
R5年度～ 建築住宅課(現所属)

WORK 担当した仕事の内容・魅力

採用後2年間は県庁舎の設計監理や工事に携わり、現在は公営住宅を管理運営する市町村職員へのサポートや適切なマンションの維持管理を推進する業務に携わっています。

そのなかで建築職はどの仕事も県民の暮らしやすいまちや住まいをつくっていくことに直結していると感じました。仕事の目的が徐々にわかるようになることで、より一層やりがいをもって仕事に取り組んでいます。

和歌山県は各府県の建築職に比べて少人数ですが、その分他所に比べて建築に関する業務に幅広く携わることができたり、上司や先輩に気軽に相談しやすい職場環境があるのではないかと感じています。

LIFE 私のわかやまライフ

和歌山県内には料理が美味しいお店や白浜などの観光地がたくさんあり、また大阪市内にもアクセスしやすいので、よくお出かけしています。



都市政策課

中本 浩平 技師

平成29年度採用

これまでの経歴

R4年度 一級建築士取得(28才)
R5年度～ 都市政策課(現所属)

WORK 担当した仕事の内容・魅力

私は今「和歌山をこんなまちにしたい」という想いを形にできる可能性がある仕事に携わっています。自分の提案した意見をまちづくりに反映させることができる面白さを感じるのと同時に和歌山の未来のためのまちづくりを担っていることに責任とやりがいを感じています。具体的には再開発、持続可能、にぎわいをテーマにした市町村のまちづくり事業をサポートしています。

建築職は過去に自分と同じ業務を経験した先輩職員が身近に多くいます。担当の苦悩なども理解してもらいつつ、それぞれの先輩

方から助言を頂ける点は強みです。同様に一級建築士試験も周囲からサポートをもらい念願の合格を果たすことができました。



LIFE 私のわかやまライフ

これまでの約3年間は、一級建築士を取得するために頑張っていました。現在は建築基準適合判定資格者の取得に向けた勉強やビーチラグビーの練習・大会に参加しています。



有田振興局 建設部

稲葉 美希 主査

平成22年度採用

これまでの経歴

H24年度 一級建築士取得(26才)
H25～28年度 育休(3年半)
R3年度 建築基準適合判定資格者取得(35才)
R5年度～ 有田建設部 建築主事(現所属)

WORK 担当した仕事の内容・魅力

海・山・川など豊かな自然が身近にある和歌山県では、地震・風水害・土砂災害などへの注意が必要であり、私が建築において最も大切にしたいのは安全であることです。建築確認や中間・完了検査などの建築基準法に関する職務を通じて、安全な建築物をつくり、安全なまちづくりに貢献できるよう取り組んでいます。新米の建築主事で判断に迷うことも多くありますが、多忙な中でも先輩や仲間と一緒に考えてくださり、助言をいただいています。



LIFE 私のわかやまライフ

休日はソフトテニス部の練習に参加しています。年齢層が幅広く、子連れ参加や実業団の大会に出る方もおられ、庁内外の様々な方と交流できます。

公共建築課

吉田 誠 班長

平成21年度採用

これまでの経歴

H21年度 一級建築士取得(33才)
H25年度 建築基準適合判定資格者取得(37才)
H29年度 一級建築施工管理技師取得(41才)
R2年度 那賀建設部 建築主事
R4年度～ 公共建築課(現所属)

WORK 担当した仕事の内容・魅力

県庁生活の約半分を公共建築課で過ごしたため、やはり様々な建築物の建築に携わったことが印象に残っています。中でも総工事費約30億円の消防学校や、有名な設計事務所が設計した南方熊楠記念館が特に印象深いです。設計発注から工事完成までの間はもちろん大変なことも多く、進捗管理や予算管理など、頭を悩ませることもあります。しかしながら、周りの先輩や上司にも相談にのってもらい、建物が完成し、様々な人に利用されているのを見ればすべて良い思い出に変わります。建築の仕事の魅力は何とんでも「形」として残ることだと思います。また、建築職としてキャリアを重ねていくことで、より難易度の高い仕事が可能となり、得た経験や知識を後輩に引き継いでいくことで、若手職員を育てられることも建築職の魅力だと思います。



LIFE 私のわかやまライフ

私の家庭は共働きで土日に妻が不在の日が多いため、休日は子供たちと過ごすことが多いです。買い物に行ったり、ドライブに行ったり、公園でバスケットをしたりしています。しかし最近、子供たちも大きくなり、一人の時間も増えてきたので、肩こりを癒すために一人で温泉に入り、美味しいものを食べることも楽しみの一つです。